

# 会報

No. 11

1986. 11. 10 発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL (075) 771-0069

## 大江町立図書館

大江町立図書館は、昭和二十八年に開設され、その後町民総合センターへの移転を経て現在に至っておりますが、来年完成する総合会館へ再移転することになりました。この会館は、大江町の中心駅になる河守駅前設けられるシビックゾーンに、面積三五〇〇平方メートル、イベントホール等と共に併設されます。図書館は、一階入口に近く、面積も一、二平方メートルと今までより若干広くなり、採光換気など環境も一新されます。

開館後は、通勤帰りや買物などと共に、足を向けられる機会が多くなると図書館側では期待しています。

## 京都市伏見中央図書館（仮称）

京都市南部の中核的図書館として、また伏見区中心部における地域図書館として、伏見区今町の駐車場公社今町駐車場（区役所東側）の二階にピロティ方式で建設する予定です。

この図書館は、中央図書館と同様、年末年始を除き年中無休、平日は午後八時半まで開館します。また、図書の閲覧・貸出、調査・研究のため



のレファレンス・サービスや、対面朗読などの身体障害者サービスを実施するほか、中央図書館とのコンピュータ・オンライン化をはかり、双方の資料を利用できるシステムを計画しています。

## 京都市洛西図書館（仮称）

西京区洛西ニュータウン、大原野東境谷町で建設中の京都市洛西総合庁舎一階に、十一館目の地域図書館として来春オープンする予定です。

図書館面積は五二六平方メートルで、蔵書数は開館当初二万冊、最終的には五万冊を目指しています。

## 第二回理事会報告

今年度二回目の理事会が九月二十四日、府立図書館で開催され、要望書の提出等について協議しました。

まず、「図書館振興に関する要望書」については、今までの経過をみると、即効性はなくても、図書館についてその役割・重要性が認識されてきており、今年度も府知事等の諸機関へ提出することで決定。また、知事と府教育長以外は、依頼文の形

式をとるようになりました。

府に対しては、「公共図書館の振興策」を早急に確立し、実現を促進してほしいこと。府立二施設の充実を図ってほしいこと。市町村図書館の振興充実のため補助制度を確立してほしいこと。などの内容で提出することにきまりました。

このあと、各委員会から中間報告があり、その中で研修研究委員会からは、三つの研究グループ（別掲）が発足したこと等が報告されました。

## 京都ライトハウス点字図書館 当協議会への加盟を承認

八月中旬、京都ライトハウス点字図書館上村館長より、当協議会への加盟について意向打診があり、事務局からは協議会々則等を再検討のうえ、加盟を申請してほしい旨回答したところ、九月二日、正式に意思表示をされたので、今回の理事会で協議の結果承認されました。

正規の加盟は六十二年度からとし、今年度はオブザーバーとして活動に参加してもらう。また分担金は、分担金規程を改正したのち決定し、役員の上選挙権は、会則改正時まで保留としました。

なお、近畿各府県の状況をみると、すべての府県で点字図書館が協議会や協会に加盟して、公共図書館員等と一緒に活動しているもようです。

## 八幡市民図書館

館長 澤田 種治

図書館員の世界大会である国際図書館連盟第52回大会が、八月二十四日から六日間、東京渋谷の青山学院大学を主会場に開催されました。

今回の大会の主テーマは「二十一世紀への図書館」で、これに①ニューメディアの影響、②図書館サービスの变化など十項目のサブテーマが設けられました。会議は全体会議のほか、八部会・三十二の分科会に分れて開かれ、そこで二百十八もの論文が読まれました。経済先進国と見なされている我が国も、図書館活動では先進国に学ぶところがたくさんあります。この大会開催が節目となつて、わが国の図書館行政がさらに発展することを願っております。



## 京都府立図書館

渡辺 勲

第五十二回国際図書館連盟（IFLA）東京大会が、五十五カ国から千九百四十三名の参加で行われました。

なお、京都からの参加者は三十一名で公共図書館から五名、他は大学図書館や専門図書館員でした。

分科会等の会議は全部で二百四十あり、それぞれで発表された論文は二百件を超えていました。分科会での論文発表は英語が基

## 第52回IFLA東京大会に参加して

本となっており、同時通訳される分科会と、されない分科会があり、同時通訳される分科会への参加者は多くみられました。

私は主に公共図書館分科会と、児童図書館分科会、障害者に対する図書館サービス分科会に参加しましたが、これらの中で特に印象に残ったことをまとめてみました。

公共図書館分科会では、「公共図書館サービスの有料化」と「相互貸借の職員」について発表されました。実際に料金をとっている例としてレコードの貸出し、予約、リクエストの連絡用通信費などがありました。が、課金を打ち出したことにより利



用者が大巾に減少した（オランダ）ということが報告され、公共図書館のサービスは絶対に無料でなければならぬことを主張し、この問題についてはさらに検討していくことになりました。

次に「相互貸借の職員」についてですが、これは別名「インター・ライブラリアン」と呼ばれ、一般のライブラリアンとは区別され、参考事務的知識はもちろん、図書館業務の全てや、他の図書館の事情についても十分把握している専門職員であつて、特別の訓練を受けた上でなれる職員であるとのこと。

児童図書館サービス分科会では、

「BUNKO」について各国の人が関心をもち、その運営方法、図書館とのかかわり方などについて細かい質問が出されていきました。

障害者・入院患者・矯正施設収容者に対する分科会では、「読書療法」について関心をもちましたが、病院図書館については欧米の方が先進国で、日本ではなぜ遅れているのか見直す一つの材料ともなりました。

また、アメリカの刑務所図書館における在監者の情報ニーズについて報告され、在監者に対して、一般の人と区別せず、状況に合った形のサービスに心掛けているあたりは、日本の場合と違った部分ではないかと思いました。

最後にIFLA全体をふりかえつてみて感じたことは、外国語のハンディキャップの大きさを改めて知ったことと、同時通訳をしていた青山学院大学の学生の見事な通訳に感心させられました。

また、図書館員は単に利用者として図書館にだけ目を向けるのではなく、世界に目を向けて視野を広げる必要があると認識いたしました。

なお、IFLAで入手した論文や写真（スライドも）は府立図書館にありますので、ご希望の方は遠慮なく申し出て下さい。語学に自信のある方は英文のお貸しいたします。

地元企業から  
寄付金

峰山町立図書館

さる八月峰山町立図書館へ、同町内の日進製作所株式会社から、図書館充実のために、一千万円の寄付金がよせられました。

同製作所からは、昭和五十六年にも同趣旨で百万円の寄付があり、図鑑類などを中心に「日進文庫」として利用者から重宝されてきている経過がありました。今回は会社創立四十周年記念としての寄付でした。

町としても早速「図書館充実基金条例」を制定し、趣旨を生かした運用を図るよう手続きをおこないました。

ひっぱくした図書館予算に四苦八苦の中で朗報に、関係者はびっくり仰天の大喜び、どのようにこの「基金」を使うか、うれしい悩みに頭を痛めています。

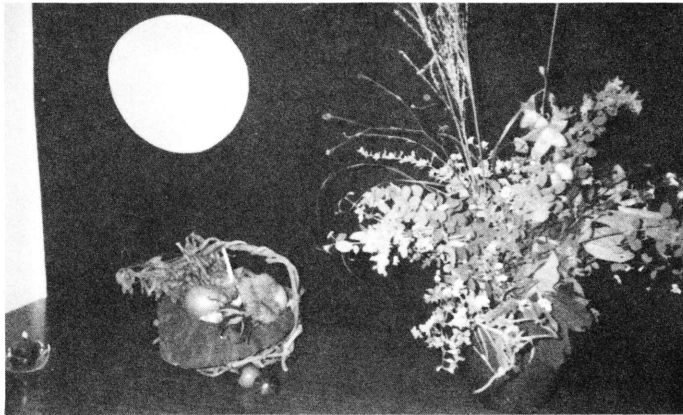
お月見会(古典に学ぶ)

精華町立図書館

精華町立図書館では、九月十八日「お月見会―古典

に学ぶ―」が催されました。当日はあいにく名月はみられませんでした。が、松井寛治館長の講演で、中世から近代に至る月を愛でた句や歌を観賞、日本人と月との深いかわりを楽しみと味わいました。

この日のために準備した秋の七草、手づくりの名月(照明つき)、あけびのかごに、くり・芋の供え物と、演出も効果的でした。その上、参加者からのさくら湯のさし入れなどもあり、雨の月見会は盛会裡に幕を閉じました。



夏休み行事特集

子ども手芸教室

福知山市立図書館

八月二十六日夜、夏休みの記念品づくりにと、「子ども手芸教室」が開かれました。この初めての催しに十八組の親子が参加し、はぎれを使ったミニ・パラソルと空きパックを利用したイヌのマスケット作りに挑戦。お母さんらに手伝ってもらって作りあげた作品に、女の子ばかりの十八人は「とてもかわいい」と満足そう。同館では職員総出で指導に当たったが「今回は女の子ばかりだったが、次回は男女とも参加できる催し」と盛況に気を良くしていました。

開館一周年・夏休みお楽しみ会

京都市西京図書館

開館一周年を迎えた西京図書館では、八月七日午後、記念行事として「夏休みお楽しみ会」が開催され、参加者は幼児から大人まで百五十人にも及びました。

職員の熱演する大型紙芝居に、子ども連れの大人も楽しく見入っており、また、テレビに慣れている子ども達には映画がめずらしく大喜び。子ども達の喜々とした姿を見て職員は、「地域に密着した図書館づく

りに、一層努力していかなければ」と改めて考えさせられた一日でした。

アンネ・フランク展

田辺町立図書館

田辺町立図書館では、八月五日十日まで「みんなで考えよう国際平和：アンネ・フランクの世界」をテーマにアンネ・フランク展が催されました。

田辺町が国際平和年を記念して開いたもので、講演会やアンネの日記など図書展示、パネルや写真などの他、アンネが隠れていた家の模型、回転本棚を使った隠れ家への入口の实物大模型なども展示されました。

「おぼけの本」展示

亀岡市立図書館  
宇治市中央図書館

子どもたちに人気のある個性ゆたかな妖怪やおぼけたちが大集合。絵本や児童文学にあらわれたおぼけに関する図書の展示が、亀岡市立図書館と宇治市中央図書館でありました。亀岡では、絵本や紙芝居を含め百六十点が、宇治では四百五十点が用意されましたが、またたく間に借り出されていくなど、あらためておぼけ人気に驚かされたようです。

## 研修研究委員会ニュース

61～62年度研修研究委員会は、18館から委員の選出をうけ、7月18日府立図書館において、第1回「委員会」を開催し、「会」運営の基本方針、事業計画等を以下のとおり決定しました。

### 1. 運営の基本方針

- (1) 前年度の事業を受継ぎ、発展させる。
- (2) 研修体制のほかに研究体制をつくる。
- (3) 京庫連他との共催事業等を発展させる。

### 2. 事業計画

- (1) 研修事業 ---- 亀岡市より北の地域で研修グループをつくり、当地域選出の委員で研修委員会を組織し、研修事業についての具体的取組みをする。

委員長：福知山市立図書館長 橋本氏

なお、一泊研修については京都市北図書館の徳平氏を中心に取組む。

- (2) 研究事業 ---- 亀岡市以南の地域を研究グループとし、当面3つの研究グループを発足させて、研究活動をおこなう。

#### ① 児童奉仕研究グループ

リーダー：城陽市立図書館 加藤氏

#### ② 障害者奉仕研究グループ

リーダー：八幡市民図書館 尾上氏

#### ③ 参考事務研究グループ

リーダー：府立総合資料館 黒坂氏

なお、当研究グループは京都府の図書館界がかかえる問題点を一つ一つ調査・研究して、その成果を当協議会参加館に還元し、問題解決の指針とするものです。

### (3) 共催事業等

#### ① 「京庫連」との共催等

イ. ストーリー・テリング入門講座を

大月ルリ子氏

を講師に5月30日・6月13日・6月27日の連続3回、府立図書館を含む3者共催で府立図書館を会場に実施しました。

ロ. 10月に講演会を開催する。

ハ. 交流会のもち方につき、京庫連と協議する。

#### ② 京都府南部図書館等連絡協議会との連携

「南図協」主催の実務研修会に後援などの形で参加し、連携を強めていく。

以上のような決定をもとに活動をしてきましたが、9月末までの具体的活動は次のとおりです。

1. 研究活動については、各館から参加者の選出をうけ、児童奉仕グループは11館12名、障害者グループは4館5名、参考事務グループは4館6名となり、10月中に正式に発足の予定です。

2. 研修活動については、9月26日福知山市立図書館に北部地域の委員が集まり、今年度研修会開催につき話合ったところ、2回開催をめどに、次のように決まりました。

#### 第1回研修会

テーマ：受入基準について — part Iマンガの取扱いについて

時 期：12月上旬(予定)

場 所：福知山市立図書館

#### 第2回研修会

テーマ：読み聞かせについて(仮称)

時 期：62年2月(予定)

場 所：宮津市立図書館(予定)

### 3. 講演会

「京庫連」と共催で10月22日、評論家山辺昭代氏の「科学の本って本当におもしろいの？」を府立勤労会館で開催しました。

### 研究集会日程(京都開催分)

○ 奉仕部門研究集会 京都市

期日：十一月二十五日(火)

会場：京都市社会教育総合センター

主題：図書館相互協力の現状と課題

○ 参考事務研究集会 京都府

期日：十二月四日(木)～五日(金)

会場：京都堀川会館

主題：ニューメディア時代における参考事務

### ◆ 広報委員会だより ◆

◆ 広報委員会発足後、第二号をお届けします。IFLA東京大会が、はじめて日本で開かれました。私達の日常活動の延長として、国際的視野を持つ眼が求められています。アジアの一員としてこの大会のもつ意義について考えてみたいものです。

◆ 各地域から万遍なく情報を収集し、より身近なニュースを会員各位に提供するという視点で、府内を五ブロックにわけ、各ブロックと広報委員会をつなぐ連絡協力員として、このほど五名の方をお願いしました。ぜひホットな話題、催しなどを、気軽に連絡協力員までおよせください。

◆ 連絡協力員 ◆ 京都市内ブロック  
 前田泰宏(京都市山科区)・洛西ブロック  
 高坂邦男(向日市立区)・山城ブロック  
 田村博康(宇治市中央区)・中丹ブロック  
 栗林さよ子(亀岡市立区)・丹波丹後ブロック  
 中西俊夫(宮津市立区)(敬称略)